

博報堂生活総合研究所 生活者にきいた“2022年 生活気分”を発表

● 2022年の景気予想は「良くなる」が過去最高を更新

来年の景気は「良くなる」と思う理由では、「コロナ禍の収束や反動」が最多
一方、2021年の景気については、「悪かった」が69.3%で多数を占める

● 2022年は「旅行」「外食」「貯金」にお金をかけたい

「来年(2022年)お金をかけたい」ものの上位3位(旅行、外食、貯金)の数値は、いずれも「今年お金をかけた」を上回る。特に「旅行」では来年(31.7%)と今年(5.9%)の差が+25.8ptと大きく増加

博報堂生活総合研究所は、2015年から毎年秋に、翌年の景況感などについて全国の20～69歳男女3,900人に予想してもらう調査を実施しています。このたび最新の調査を加え、“2022年 生活気分”としてまとめました。

今回の結果では、昨年に続き今年の景気が「悪かった」が多数を占めたものの、来年の景気が「良くなる」は過去最高を更新しました。また、来年は今年よりも「旅行」「外食」「貯金」など、多くのものごとにお金をかけたいという意識が高まっています。コロナ禍で景気や行動が停滞した反動から、来年への期待や意欲を高める生活者像がみえてきました。

“2022年 生活気分”調査結果のポイント

2022年の景況感

今年の景気が「悪かった」ことの反動で、来年の景気予想は「良くなる」が過去最高

- ・今年の「世の中の景気」は、「悪かった」が69.3%で前回調査(79.3%)から-10.0ptと減少したもの、過去6年間で2番目の高さに。
- ・来年の「世の中の景気」は、「良くなる」が29.9%で過去最高を更新。「悪くなる」は20.2%で前回(35.9%)より-15.7ptと、好転予想が目立ちます。
- ・「良くなる」と思う理由(自由回答)を集計したところ、「コロナ禍の収束や反動」が全回答数の38.9%、「経済の好転」が30.5%となりました。ワクチン接種が進み新型コロナウイルス感染者数が減っていることに加え、昨年に続き今年も不調だった反動から、来年こそは景気が良くなる/良くなってほしいと期待を込める生活者が多いようです。
- ・また、来年の「自分の家計状態」予想は「変わらない」が前回(58.2%)から+8.8ptで67.0%となりました。一方「悪くなる」は、前回(29.3%)から-10.4ptで18.9%となりましたが、「良くなる」(14.1%)をやや上回っています。

2022年
世の中の変化予想

今年の変化は「多かった」が5割。来年「多くなる」との予想は減少し、4割に

- ・今年の「世の中の変化」は、「多かった」が前回調査から-28.1ptと大幅に減少したものの、過去6年間では2番目に高く、5割(50.9%)となりました。
- ・来年の「世の中の変化」予想は、「多くなる」が前回から-9.6ptと減少して、4割(39.5%)となりました。
- ・「多くなる」と予想する変化(自由回答)をみると、「新型コロナウイルスと共存するための新しい生活様式」(全回答数の16.8%)が最も多く挙げたほか、「自粛や行動制限の緩和」(15.5%)など、コロナ禍収束への期待を込めた予想が目立ちます。

2022年に
お金をかけたいこと

1位「旅行」、2位「外食」、3位「貯金」。いずれも「今年お金をかけた」を上回る

- ・「来年お金をかけたいもの(全25項目)」の上位は、「旅行」(31.7%)、「外食」(25.3%)、「貯金」(24.1%)。その数値は、いずれも「今年お金をかけた」を上回っています。特に、「旅行」では来年と今年の差が+25.8ptと大きくなっています。
- ・他にも、6位「レジャー」(来年18.1%、今年3.8%、差+14.3pt)、10位「交際費」(来年11.5%、今年4.3%、差+7.2pt)、12位「イベント、ライブ、フェス」(来年9.7%、今年2.1%、差+7.6pt)などで来年と今年の差が目立ちます。
- ・一方、5位「ふだんの食事」は今年32.5%に対し、来年の意向は18.3%と低く、その差は-14.2ptとなっています。昨年に続くコロナ禍で外食やレジャーなど外出の自粛を余儀なくされたこともあり、来年はソト向き消費への意欲が高まっているようです。

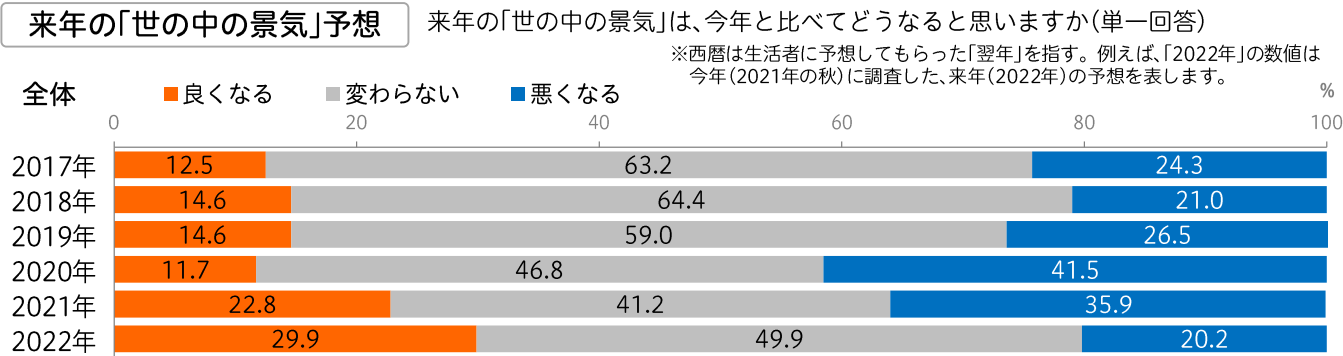
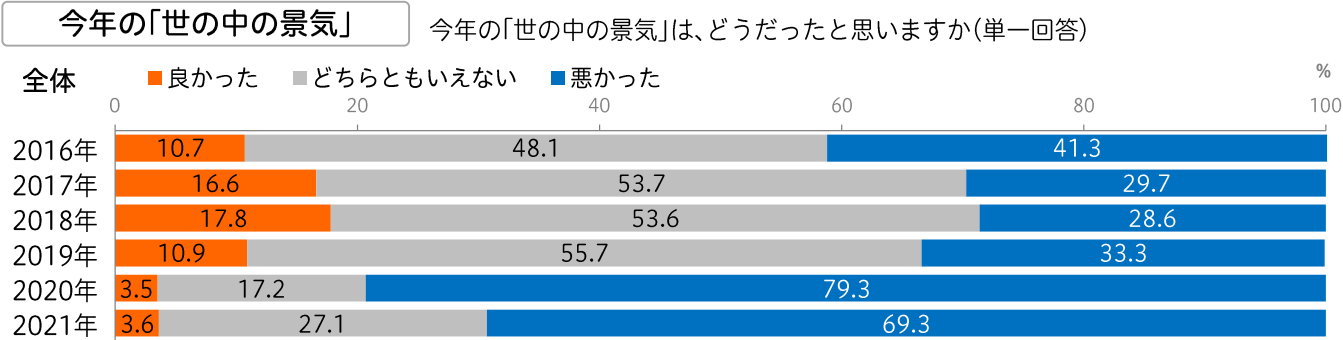
2022年に
始めたい/やめたいこと

始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無理しての人付き合い」

- ・「来年始めたいことがある」人は29.1%、「来年やめたいことがある」人は19.4%で、ともに前回から微増となりました。
- ・「始めたいこと」では、「運動・体操・筋トレ」(31.1%)がトップで、「副業」(27.6%)、「趣味・習い事」(25.6%)と続きます。
- ・一方、「やめたいこと」は「無理しての人付き合い」(31.1%)がトップ。次いで、「無駄遣い・衝動買い」(29.0%)、「スマホの使いすぎ」(26.1%)が続いており、来年は自分の体力や能力の向上を図りつつ、無理や無駄は抑制しようとする生活者の意識がみえてきます。
- ・「始めたいこと」「やめたいこと」とともに、男性よりも女性の値が高いものが多く、「やめたいこと」の1位「無理しての人付き合い」、7位「お菓子・甘いもの」で男女差が15pt以上となっています。

今年の景気が「悪かった」ことの反動で、来年の景気予想は「良くなる」が過去最高

- ・今年の「世の中の景気」は、「悪かった」が69.3%で前回調査(79.3%)から-10.0ptと減少したもの、過去6年間で2番目の高さに。
- ・来年の「世の中の景気」は、「良くなる」が29.9%で過去最高を更新。「悪くなる」は20.2%で前回(35.9%)より-15.7ptと、好転予想が目立ちます。
- ・「良くなる」と思う理由(自由回答)を集計したところ、「コロナ禍の収束や反動」が全回答数の38.9%、「経済の好転」が30.5%となりました。ワクチン接種が進み新型コロナウイルス感染者数が減っていることに加え、昨年に続き今年も不調だった反動から、来年こそは景気が良くなる/良くなってほしいと期待を込める生活者が多いようです。



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,166人 男性600人 女性566人)

	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 コロナ禍の収束や反動	38.9	39.0	38.9	+0.1	・日本はようやくアフターコロナへ向かっていくと思う(男性30歳・新潟県) ・コロナ感染者も減ってきているので、皆さん元の生活に戻れると思う(女性49歳・北海道)
2位 経済の好転	30.5	25.5	35.9	-10.4	・コロナが収まれば世の中の雰囲気も良くなる。そうすれば消費も活性化される(男性65歳・石川県) ・コロナ規制が緩やかになって、経済的な動きが活発になると思う(女性56歳・岡山県)
3位 ワクチン接種の進展	20.2	16.5	24.2	-7.7	・ワクチンの効果や感染を防ぐ生活習慣の定着で社会全体が落ち着くと思う(男性65歳・新潟県) ・ワクチン接種も進んでいるので良くなってほしいという願望(女性29歳・広島県)
4位 自粛や行動制限の緩和	14.2	12.2	16.3	-4.1	・緊急事態宣言が解除されたから飲食店等賑やかになると思う(男性56歳・大阪府) ・コロナ治療薬も出てきて、今年よりは自由な生活ができるようになる(女性60歳・東京都)
5位 旅行やレジャー活動再開への期待	8.5	5.5	11.7	-6.2	・レジャー、エンタメなどの分野が回り始めるから(男性64歳・宮城県) ・旅行など人が移動する事でお金も移動すると思う(女性62歳・埼玉県)

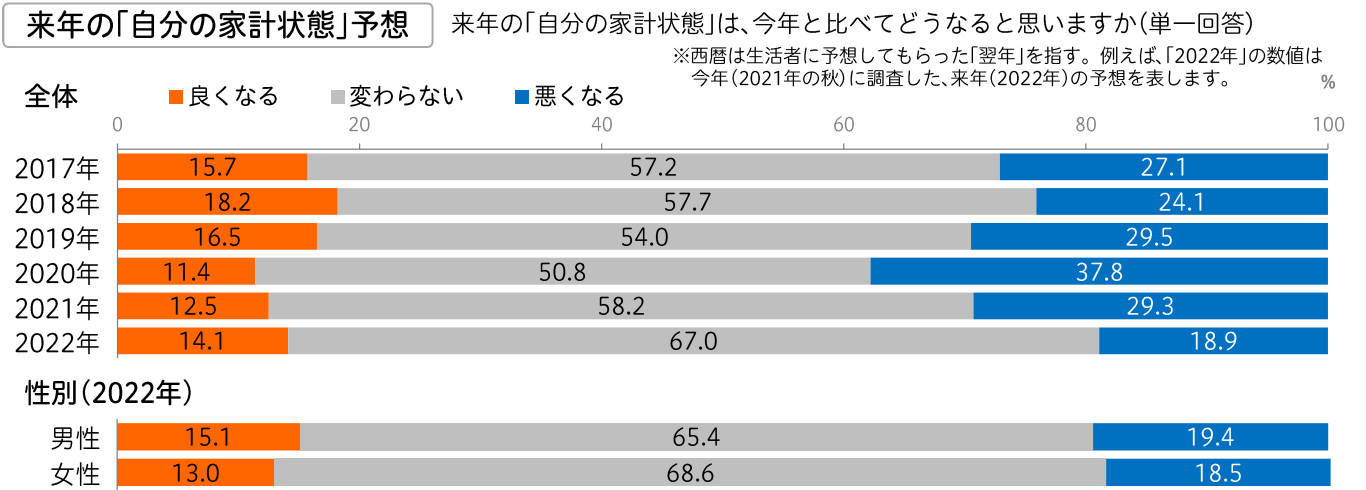
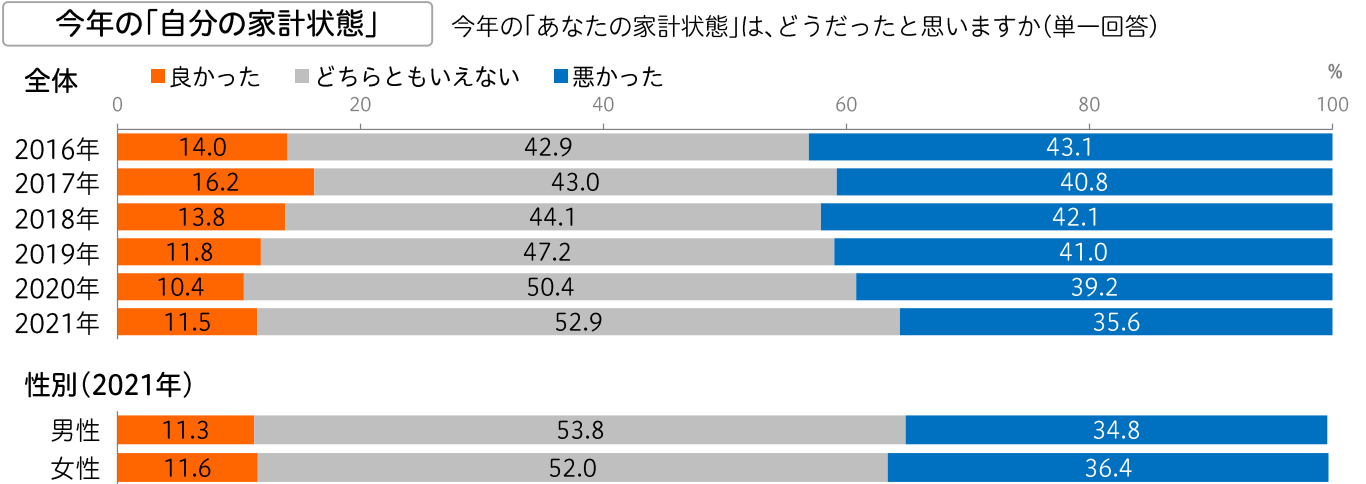
「悪くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体788人 男性414人 女性374人)

	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 コロナ禍の長期化	37.4	35.3	39.8	-4.5	・コロナ禍の影響で失業者が増えると思う(男性53歳・香川県) ・コロナの影響はまだ続くと思うから楽観できない(女性48歳・新潟県)
2位 景気低迷の継続	22.6	20.5	24.9	-4.4	・外出制限など経済が停滞したため、リカバリーには時間がかかる(男性37歳・宮城県) ・いまが最悪だとして、まだ引きずると思うから(女性35歳・千葉県)
3位 政治への不信感	8.4	9.7	7.0	+2.7	・コロナ対策/景気対策など税金の使い方が全くダメ。無駄使いがひどすぎる(男性63歳・愛知県) ・コロナに関係なく、景気が良くなるような政策を立てられていないと思う(女性38歳・石川県)
4位 物価上昇、出費の増加	7.2	6.3	8.3	-2.0	・右肩あがり支出(特に税金)が増えるが、給料は横ばいだから(男性48歳・大阪府) ・物の価格値上げのため貧富の差が広がる(女性49歳・北海道)
5位 収入の減少	6.2	6.0	6.4	-0.4	・収入が減って支出が増えるから、質を落としてバランスをとるしかない(男性62歳・愛知県) ・年金生活者なので、政府が苦しくなると多分年金が減らされると思う(女性68歳・香川県)

来年の家計予想は「変わらない」7割、「悪くなる」2割。悪くなる理由は「収入の減少」

- ・今年の「自分の家計状態」は、「悪かった」が前回調査からやや減少し、「どちらともいえない」は、前回に続き5割台(52.9%)。
- ・来年の「自分の家計状態」予想は、「変わらない」が前回(58.2%)から+8.8ptで67.0%となりました。一方「悪くなる」は、前回(29.3%)から-10.4ptで18.9%となりましたが、「良くなる」(14.1%)をやや上回っています。
- ・「悪くなる」と思う理由(自由回答)をみると、「収入の減少」が全回答数の41.3%でトップ。「仕事量の減少や退職、失業」(19.8%)、「物価上昇、出費の増加」(15.0%)を危惧する意見も目立ちます。



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体548人 男性295人 女性253人)

	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 収入の増加	39.2	41.0	37.2	+3.8	・公務員なので安定して給料はもらえるし、貯蓄も増えていくと思う(男性30歳・宮城県) ・いま副業と投資について勉強しているから、良くなると思う(女性28歳・広島県)
2位 就職や転職などによる改善	21.7	16.6	27.7	-11.1	・転職したため給与が上がる(男性29歳・北海道) ・これまでパート勤務だったが、正社員で仕事を新たに始める(女性26歳・福岡県)
3位 希望的観測	10.0	7.8	12.6	-4.8	・さすがに来年は昇給があるだろうと期待を込めて(男性33歳・大阪府) ・良くなると思って、試行錯誤して生活している(女性39歳・宮城県)
4位 経済の好転	8.2	7.8	8.7	-0.9	・景気が徐々に向上になっていき、給料面でも優遇されると思う(男性64歳・北海道) ・世の中の景気に比例して良くなると思う(女性28歳・静岡県)
5位 コロナ禍の収束や反動	4.0	4.4	3.6	+0.8	・コロナが少しは落ち着いて、収入面で少しはアップすると思う(男性36歳・兵庫県) ・仕事はコロナの影響を受けているが、収束すればお客さんが増えると思う(女性43歳・福岡県)

「悪くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体739人 男性379人 女性360人)

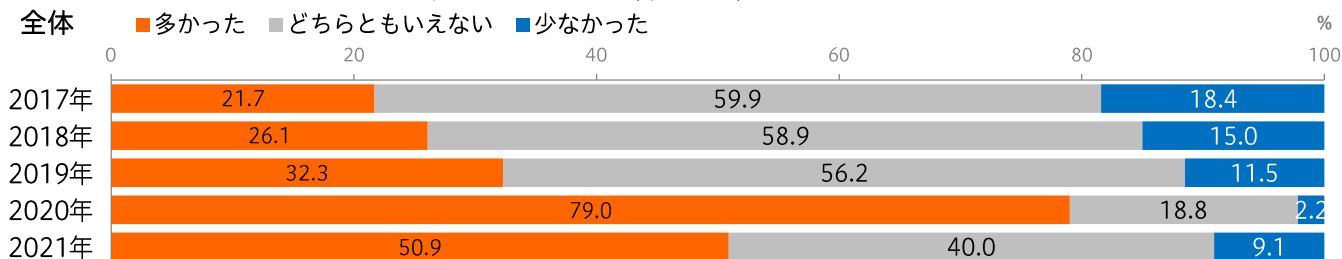
	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 収入の減少	41.3	36.4	46.4	-10.0	・家賃収入がなくなるので(男性67歳・香川県) ・ボーナスが減ったので、今後もっと減ると思う(女性26歳・埼玉県)
2位 仕事量の減少や退職、失業	19.8	15.3	24.4	-9.1	・定年になって正社員から契約社員になったから(男性60歳・新潟県) ・今の仕事は、これから悪くなる業界だと思う(女性48歳・愛知県)
3位 物価上昇、出費の増加	15.0	14.2	15.8	-1.6	・物価の高騰が進み、マイナス金利の影響もあって預貯金は目減りする(男性68歳・大阪府) ・看護師なので収入は落ちないが、物価上昇で家計支出が増えることは確か(女性29歳・東京都)
4位 コロナ禍の長期化	8.7	8.4	8.9	-0.5	・コロナ影響で子供が失業。自分も年金生活になり収入が激減する(男性65歳・新潟県) ・コロナ禍が終わりそうになく、会社の業績が悪くなるとは思えない(女性45歳・東京都)
5位 景気低迷の継続	8.5	9.5	7.5	+2.0	・良くなる兆しは何も見えていないから、そう思わざるを得ない(男性66歳・静岡県) ・長期化する不景気で収入も減り、経済的に苦しくなる(女性59歳・佐賀県)

今年の変化は「多かった」が5割。来年「多くなる」との予想は減少し、4割に

- 今年の「世の中の変化」は、「多かった」が前回調査から-28.1ptと大幅に減少したものの、過去6年間では2番目に高く、5割(50.9%)となりました。
- 来年の「世の中の変化」予想は、「多くなる」が前回から-9.6ptと減少して、4割(39.5%)となりました。
- 「多くなる」と予想する変化(自由回答)をみると、「新型コロナウイルスと共存するための新しい生活様式」(全回答数の16.8%)が最も多く挙げたほか、「自粛や行動制限の緩和」(15.5%)など、コロナ禍収束への期待を込めた予想が目立ちます。

今年の「世の中の変化」

今年、あなたからみた世の中のことで「変わった」と感じることは、多かったですか。(単一回答)

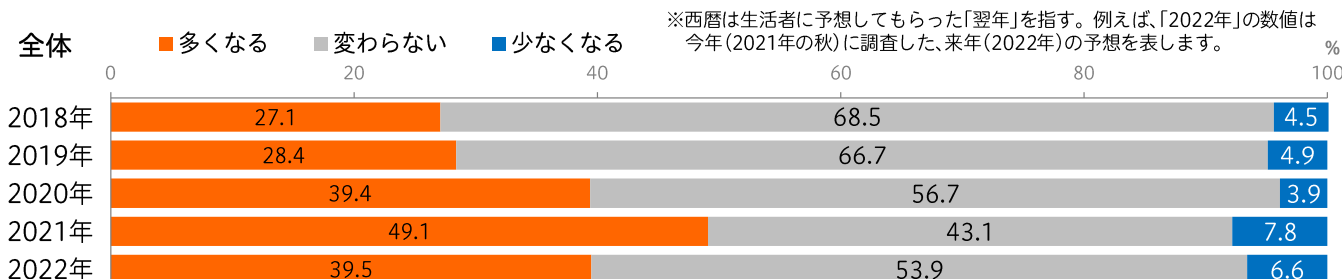


性別(2021年)



来年の「世の中の変化」予想

来年、あなたからみた世の中のことで「変わった」と感じることは、今年と比べて多くなると思いますか。(単一回答)



性別(2022年)



来年「多くなる」と予想する変化

※自由回答を集計したトップ5。%は「多くなる」と回答した人ベースで算出(全体1,540人 男性744人 女性796人)

	全体	男性	女性	男-女	予想する変化の具体例
1位	16.8	16.3	17.3	-1.0	・コロナウイルスとの向き合い方は、対策から共存へと変わると思う(男性31歳・新潟県) ・新しい生活習慣が増え、それに伴って新しいルールも増えると思う(女性45歳・広島県)
2位	15.5	13.7	17.2	-3.5	・娯楽の消費が増えて、世の中が活気にあふれる(男性61歳・愛知県) ・マスクをしないで生活できるようになる(女性27歳・東京都)
3位	9.9	9.8	10.1	-0.3	・コロナの影響をどう考えるかで二分され、大小様々な争いが起きそう(男性43歳・静岡県) ・何事にも衛生面に気を付ける世の中になりそう(女性54歳・北海道)
4位	7.1	6.3	7.8	-1.5	・コロナの時代が終わり、収入が増え、楽しい事が起こると期待している(男性55歳・宮城県) ・コロナで亡くなる人が減って、コロナのニュースが少なくなる(女性62歳・福岡県)
5位	6.0	6.0	5.9	+0.1	・デジタル化の進捗によって生産性が向上し、GDPの増加が期待できる(男性64歳・東京都) ・感染症対策ではなく、時代に合わせた在宅勤務を行う企業が増える(女性37歳・宮城県)

(%) (pt)

1位「旅行」、2位「外食」、3位「貯金」。いずれも「今年お金をかけた」を上回る

- ・「来年お金をかけたいもの(全25項目)」の上位は、「旅行」(31.7%)、「外食」(25.3%)、「貯金」(24.1%)。その数値は、いずれも「今年お金をかけた」を上回っています。特に、「旅行」では来年と今年の差が+25.8ptと大きくなっています。
- ・他にも、6位「レジャー」(来年18.1%、今年3.8%、差+14.3pt)、10位「交際費」(来年11.5%、今年4.3%、差+7.2pt)、12位「イベント、ライブ、フェス」(来年9.7%、今年2.1%、差+7.6pt)などで来年と今年の差が目立ちます。
- ・一方、5位「ふだんの食事」は今年32.5%に対し、来年の意向は18.3%と低く、その差は-14.2ptとなっています。昨年に続くコロナ禍で外食やレジャーなど外出の自粛を強いられたこともあり、来年はソト向き消費への意欲が高まっているようです。

今年お金をかけた & 来年お金をかけたいもの(上位15位)

今年(2021年)、あなたがお金をかけたものはどれですか。
来年(2022年)、お金をかけたいと思うものはどれですか。(ともに複数回答)

※全25項目のうち、上位15位までを2022年意向を基準にランキング

全体



始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無理しての人付き合い」

- ・「来年始めたいことがある」人は29.1%、「来年やめたいことがある」人は19.4%で、ともに前回から微増となりました。
- ・「始めたいこと」では、「運動・体操・筋トレ」(31.1%)がトップで、「副業」(27.6%)、「趣味・習い事」(25.6%)と続きます。
- ・一方、「やめたいこと」は「無理しての人付き合い」(31.1%)がトップ。次いで、「無駄遣い・衝動買い」(29.0%)、「スマホの使いすぎ」(26.1%)が続いており、来年は自分の体力や能力の向上を図りつつ、無理や無駄は抑制しようとする生活者の意識がみえてきます。
- ・「始めたいこと」「やめたいこと」ともに、男性よりも女性の値が高いものが多く、「やめたいこと」の1位「無理しての人付き合い」、7位「お菓子・甘いもの」で男女差が15pt以上となっています。

来年始めたいことがある

来年、「思い切って始めてみたいこと」はありますか(単一回答)

	全体	男性	女性	男-女
2017年	35.4	32.4	38.4	-6.0
2018年	31.3	29.1	33.4	-4.3
2019年	30.8	29.1	32.6	-3.5
2020年	29.4	28.6	30.3	-1.7
2021年	27.5	28.0	27.0	+1.0
2022年	29.1	28.4	29.7	-1.3

来年やめたいことがある

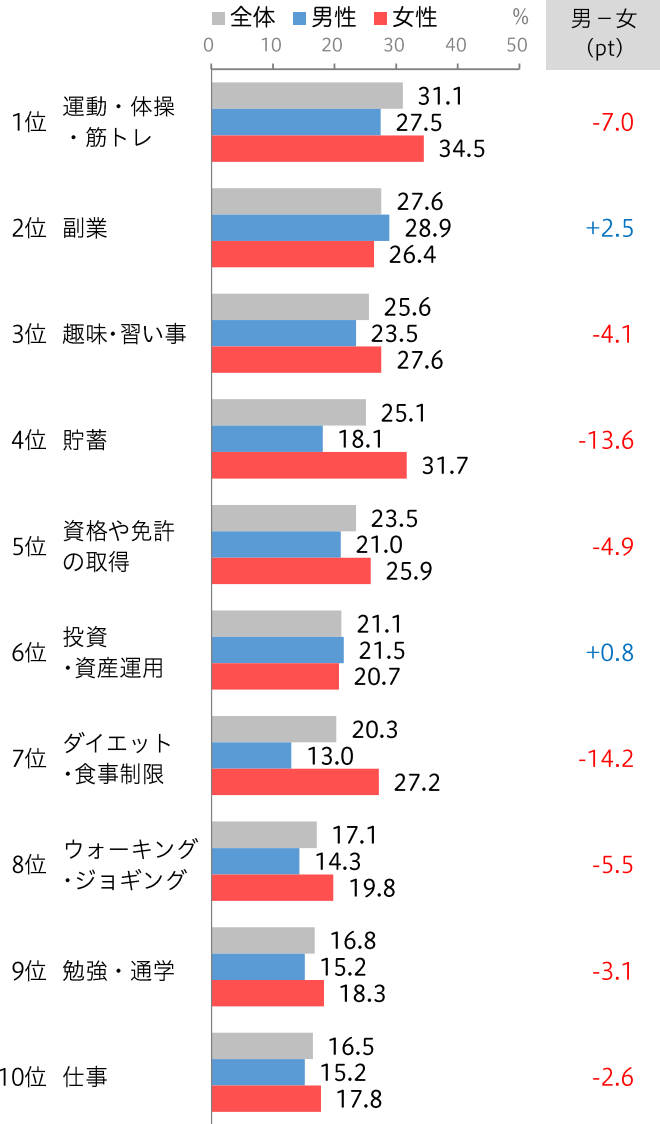
来年、「思い切ってやめたいこと」はありますか(単一回答)

	全体	男性	女性	男-女
2017年	23.5	22.9	24.0	-1.1
2018年	20.7	19.5	21.8	-2.3
2019年	20.6	19.4	21.8	-2.4
2020年	19.8	20.2	19.4	+0.8
2021年	18.7	19.3	18.1	+1.2
2022年	19.4	19.6	19.3	+0.3

来年始めたいこと(上位10位)

来年、「思い切って始めてみたいこと」は何ですか(複数回答)

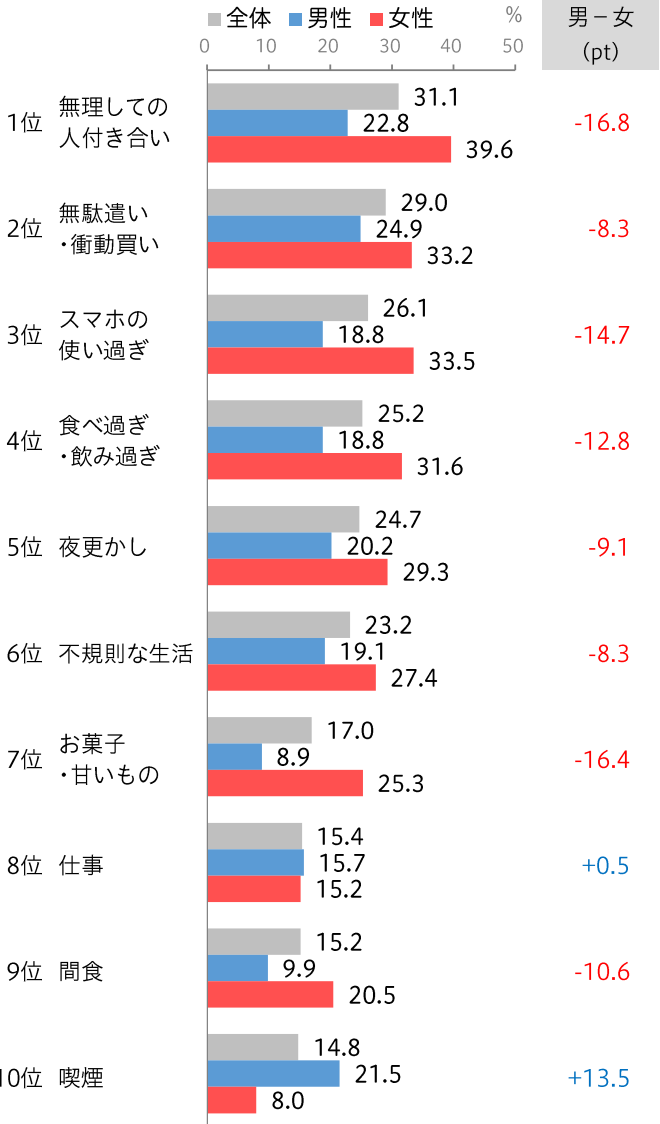
※2021年調査(2022年意向)
※始めたいことがある人にのみ質問(全体1,133人 男性553人 女性580人)
※数値は、始めたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



来年やめたいこと(上位10位)

来年、「思い切ってやめたいこと」は何ですか(複数回答)

※2021年調査(2022年意向)
※やめたいことがある人にのみ質問(全体758人 男性382人 女性376人)
※数値は、やめたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



“生活気分” 調査概要

生活者が予想する来年の景況感や生活気分、行動意欲などを時系列で比較する調査。
毎年秋に実施し、翌年の“生活気分”としてまとめています。

(2022年予想)

調査地域 全国11都市
首都40 k m圏、名古屋40 k m圏、阪神30 k m圏、
札幌20 k m圏、仙台20 k m圏、新潟30 k m圏、
金沢20 k m圏、静岡20 k m圏、広島20 k m圏、
高松30 k m圏、福岡30 k m圏
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,949人 女性1,951人
調査時期 2021年10月1日(金)～4日(月)
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(2021年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,944人 女性1,956人
調査時期 2020年10月1日(木)～7日(火)

(2020年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,944人 女性1,956人
調査時期 2019年10月3日(木)～8日(火)

(2019年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,938人 女性1,962人
調査時期 2018年10月4日(木)～9日(火)

(2018年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,935人 女性1,965人
調査時期 2017年10月5日(木)～10日(火)

(2017年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,941人 女性1,959人
調査時期 2016年10月6日(木)～11日(火)

※調査対象、調査時期以外の調査設計は2022年予想と同じ

問い合わせ先 博報堂生活総合研究所(近藤・内濱) 03-6441-6450 seikatsusoken.info@hakuhodo.co.jp
株式会社博報堂 広報室(玉・大野) 03-6441-6161 koho.mail@hakuhodo.co.jp